

主体的に読み深めるための指導の工夫

～「三年とうげ」の学習を通して～

那覇市立識名小学校教諭 儀武 裕子

テーマ設定理由

現代社会において価値観が多様化し、様々な考え方や価値観をもった人々の間で伝え合い相互理解を図っていくために、これまで以上に高度な国語の運用能力が求められている。

しかし、近年の日本人の言語力の低下が問題視され、その原因の1つに読書量の減少が挙げられている。これからの時代の中で、各人がよりよく生きるために国語力を一層向上させるのが学校教育の課題である。

教育課程審議会の答申を受け、小学校学習指導要領解説国語編第1章第2節改訂の基本方針に「豊かな言語感覚を養い、お互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成すること」や「文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、目的に応じて的確に読みとる能力や読書に親しむ態度を育てること」を重視することが述べられている。

また、領域も改められ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び言語事項の3領域1事項となった。「読むこと」の領域においても、言葉で伝え合う能力を育成することを目指すとともに指導の在り方を見直すことが求められている。

さらに、「読むこと」における指導事項の重点化として、音読は低・中学年、段落相互の関係は中学年、人物の気持ちの読みとりは高学年で重点的に取り扱うようになっている。学習指導要領の改訂の趣旨を理解し、国語科の基礎・基本を身に付け、生きて働く国語の力となるよう学習指導の工夫をしなければならない。

これまでの授業を振り返ってみると、明確な目的をもたせないまま音読をさせたり、詳細な読解に偏る傾向にあったため、児童の学習に対する興味・関心が薄れてしまった。

今年度、第3学年を担当するにあたり、中学年の指導の重点化をふまえ、児童が興味・関心をもち、言語感覚を磨きながら、主体的に読み深めていけるような指導の工夫を行いたい。そのため、学習の手引きや音読カードを工夫して学習の仕方を学ばせると共に、目的意識をもって読み進めるための手だてや相互交流について研究したいと考えた。また、中学年の「読むこと」の目標の1つでもある幅広く読書しようとする態度を育てるために、読み物に対する興味・関心を高めるための環境を工夫することで、読書を広げていけるのではないかと考え、本研究テーマを設定した。

研究目標

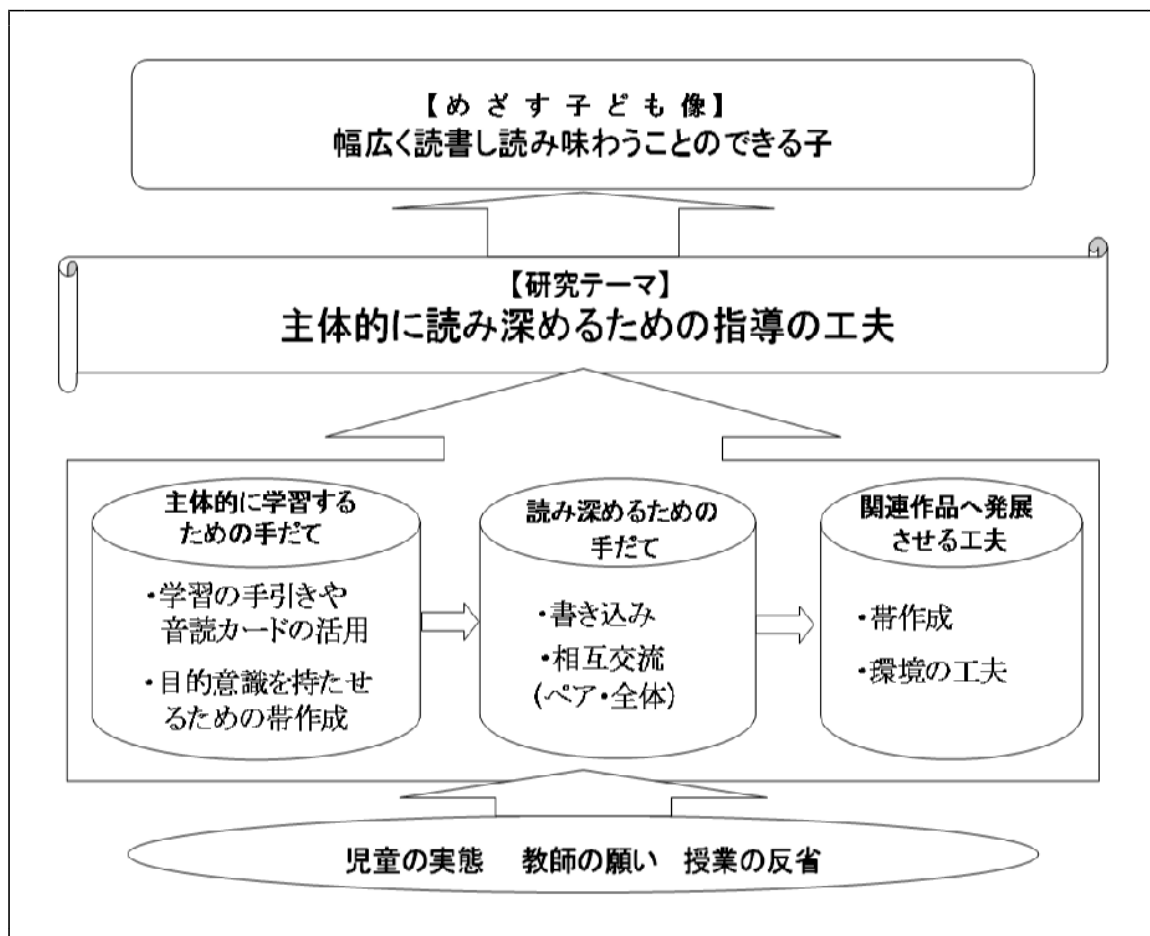
児童が叙述に即して主体的に読み、友達と交流していく中でお互いの考えを伝え合い、読み深めていくための指導の工夫について研究する。

研究方針

- 1 叙述に即して自分の考えをもつための書き込みと、多様な見方ができるようにするための相互交流を工夫する。

2 世界の民話や童話に興味をもち，読書を広げるように工夫する。

研究構想図



研究の内容と方法

1 主体的に読み深めるとは

主体的に読み深めるとは，子どもが目的意識をもって読み進めたり，読み進める中で自らの考えをもち，叙述に即した根拠をもって他者と交流することで，見方・考え方の多様さに気づき，改めて読み直す中で新たな気づきがあったり，見方や考え方の変容があることだと捉える。

子ども達は，文章を読み進めながら，人物への共感や反発，展開への意外性，新鮮な驚き等，様々な気づきがあり，自分の考えをもつことができるだろう。また，友達との相互交流を通して自他の感じ方や考え方の違いに気づくと共に，自分の考えを見つめ直すきっかけにもなり，それが新たな発見につながり，学んだことが心に残ると思われる。

このように，国語学習で文章を読むことの楽しさや発見することの喜びを感じることは，読書意欲を高め，日常的に読書する態度へとつながり重要であると考える。

声に出して読む楽しさ，自分の考えをもって読む楽しさ，他者との考えを交流する楽しさ，新たな気づきがある楽しさを味わわせる中で，主体的に読み深める経験を積ませたい。

2 「三年とうげ」の教材分析

三年とうげは、朝鮮の民話であり、全体に流れるリズム・テンポのよさが昔話や民話の特徴を伝え、楽しく読める教材である。この三年とうげを中心教材として単元構成し、下記に挙げる力を身に付けさせるようにする。

(1) 世界の民話や童話へ広げる読書単元としての扱い

「読むこと」の内容「いろいろな読み物に興味をもち、読むこと」において、第3学年ではいろいろな読み物を読むことが重視されている。本単元は、読書単元として位置づけられており、読書に対する関心・意欲を高め、本の世界を広げることがねらいである。単元の構成として、あるテーマのもと多くの民話でテーマを追究する方法と、ある一つの教材でおもしろさを味わい、読書への意欲を高め、他の本へ広げる方法がある。

今回は三年とうげを中心にその本のおもしろさを味わい世界の民話や童話に広げていく。三年とうげのおもしろさを十分に味わわせることがポイントになると考える。

(2) 「三年とうげ」のおもしろさと言語活動

対句的表現に着目させ見比べる力を培う

「春」と「秋」の情景の美しさを季節の花で「春には...さきみだれる」「秋には...美しく色づく」と対句的表現を用いたり、「ため息が出るほどよいながめ」の同じ言葉で締めくくっているところに気づかせ、叙述に即して情景のイメージを膨らませると共に、どちらも「ため息が出るほどよいながめ」で情景の美しさを感じとらせたい。

また、言い伝えとトルトリの歌も類似している。しかし、言い伝えは戒めであり、トルトリの歌には希望がある。この一見似ている言い伝えとトルトリの歌を比較させ、違いを感じ取らせる等、見比べる力を培うことができる。

複合語・擬音語・擬態語に着目させ言語感覚を豊かにする

「はね起きる」は「はねる」と「起きる」の複合語である。重病人だった老人の様子を「起きる」と表現するよりも「はね起きる」と表現することにより、おもしろさが出てくるとともに、そのイメージを膨らませやすい。

その他にも、「がたがたふるえる」「おいおいなく」「けろけろけろっとした」等の擬態語が効果的に使われている。おじいさんが怖がっている様子や、おじいさんがおばあさんにしがみついてまるで子どものようにおいおい泣く様子、何もなかったかのようにけろっとしている様子等、擬態語を使うことにより豊かに表現されている。

また、「ころりん、ころりん、すってんころり…」等の擬音語によるリズムのよさも加わりおもしろさへとつながっている。

このような言葉に着目し、動作化や音読により意味理解を深めたり味わったりすることで、言語感覚を豊かにすることができる。

帯作成を通してキーワードを見つけたり簡潔にまとめたりする力を培う

本の帯は、その本のよさを簡潔に表すと共に、読みたくなるような工夫もあり、読書意欲を高めるものである。

「おもしろいところを探し、本の帯を作ろう」と子どもに呼びかけ、「三年とうげ」の中で読み取ったおもしろさを伝えるための本の帯を作る。子ども達は、帯作りをするためにおもしろいところを見つけようと目的意識をもって本を読み、「三年とうげ」を読む必要感が生まれる。また、帯作成をするために本の中からキーワードを見つけ、おもしろさや伝えた

いことを短くまとめて表現する等の力もつけていくことができる。

3 主体的に読み深めるための学習指導の工夫

(1) 主体的に学習を進めるための支援

学習の手引きの作成と活用

子どもが、主体的に学習を進めるためには、何をどのように学習すればいいのかが「学び方」を知っていることも重要である。学び方を学ぶ方法の1つとして学習の手引きがある。

図1のような学習の手引きを活用することにより、子どもが学習に対する見通しをもつと共に学習の仕方がわかり、自ら学習が進められるようになると考える。

3年生初期であることを踏まえ、学習の順序、形態、内容、学習の進め方を見やすくわかりやすいように工夫した。また、進行具合がわかるようにチェック欄を設け、シールを貼れるようにした。

一人でも学習が進められ、わからなくなった時はいつでも手引きに戻り、一人学びができるように机の横に掛けておき活用していけるようにする。

音読カードの活用

音読のよさには、日本語の正しい発音、発声、正確に読む練習になることや、耳から聞いて理解を助ける働きをすること等がある。

音読が中学年までの指導の重点事項となっているため、学習を進める中での音読の工夫が必要である。

そこで、音読カード(図2)を使って子ども達が意欲的に音読に取り組めるように工夫する。まず、音読のめあてとして「声の大きさや強弱、速さ、間のとり方」等いくつかの視点を与え、子ども自らめあてをもって音読ができるようにする。

めあてがどの程度達成できたかを「よくできた

よくできた。ふつう。がんばろう」の記号で自己評価させ、課題を明らかにすることで、次へのめあてをもち、意欲的に取り組むと考える。

順 し よ	形 た い	学 習 の 内 容	学 習 の す す め 方	チ ェ ッ ク
1	全体	○だい名読み ○はじめて読 んでの感想	●どんなお話を想ぞつする。 ●先生の読み聞かせやお話のテープを聞いてはじめての感想を書く。	
2	一人 一人	○音読	●読めない漢字や言葉に線を引きながら、一人で音読する。 ●読めない漢字や言葉を学び合いながら音読する。	
3	一人	○し写	●ノードに1行おきにし写する。 ●「。」や「。」「会話文」に気をつけながら書く。	
4	一人	○あらすじを書く ○「小見出し」をつける	はじめに いつ・どこで・だれが・どんなことがあったのか。 次に どんなできごとがあったのか。 ところが そのできごとがどうか変わったのか。 さい後に どうなったのか。	
5	一人	○じ典で調べ	●新出漢字やむずかしい言葉を調べてノートにメモに書く。 ●新しいかん字練習をする。	
6	一人	○感じたことを書きこむ	●次のようなことを行間に書き込む 1 おもしろいと思ったところ ・言葉や表現のしかたのおもしろさ ・様子を想像するとおもしろい ・おもしろいと思ったわけも書こう。 2 ぎもんに思ったところ ・あれ、どうしたんだらう。 ・自分だったらちがうのにな。 ・ふしぎだな。と思ったところを書こう。 3 心に強く残ったところ ・すごい、りっぱだな、かわいそうだな、いやだななど、心に感じたところを書こう。 書き表し方:でくふうしているところ くり返し... もっと もっと ぎ音語... ギーギー、とんとん、 ぎたい語...とことこ歩く	
7	全体	○話し合い学習	●友だちと、もっとよく読み合いながら自分の考えや思っていることを話し合 ●友だちと話し合ったことを発表し、みんなの考えを聞きながら、自分の考えとくらべる。	話し合
8	一人	○くふうして表げんしよう	●おひを作ろう ●お手紙を書こう ●つづきの話を作ってみよう	
9	一人	○学習のまとめ	●交流して学んだこと、気づいたことを自分なりにまとめる。 ●学習をふりかえって、自分の学習のし方を自己ひようかする。	

図1 学習の手引き

音 読 カ ー ド 名 前			
単元名			
よくできた		○ふつう	がんばろう
音 読 の め あ て		/	/
1	声の大きさをくふうして読む		
2	内ようにあった速さで読む		
3	間のとりかたをくふうして読む		
4	かん字や言葉を正かくに読む		
5	場面の様子が表れるように読む		
友だちからのメッセージ			
()より			

()より			

図2 音読カード

また、ペアで音読を聞き合い、その感想を書き合うことで相互評価を行い、読む力をつけていきたい。

(2) 自らの読みを深めるのための支援

書き込みの工夫

子どもが主体的に読み深めるためには、読むことによって一人一人が自分なりの考えや疑問等をもっていることが重要である。そして、それは根拠の無い考えではなく、叙述に即していなければならない。そこで、書き込みを行うことによって、叙述に即した自分なりの読みをさせたいと考えた。

今回初めて書き込みを行うため、教科書を印刷したものを使い、書き込みの仕方を重点的に指導する。登場人物の言動や繰り返し、擬音語、擬態語に着目させ、書き込みたい箇所に付箋紙を貼り、それに書き込んでいくという方法で行う。

心のむしメガネでみつけてみよう！

- 1 おもしろいと思ったところ
・言葉や表げんのしかたがおもしろい。
・様子を想ぞうするとおもしろい。
・おもしろいと思ったわけも書こう。
- 2 ぎもんに思ったところ
・あれ、どうしたんだろう。
・自分だったらちがうのにな。
・ふしぎだな、と思ったところを書こう。
- 3 心に強く残ったところ
・すごい、りっぱな、かわいそうだな、いやだな、
など、心に感じたところを書こう。

書き表し方でくふうしているところ
おもしろい表げんを見つけてみよう
くり返し... もっと もっと
ぎ音語...ギーギー、とんとん、
ぎたい語...とことこ歩く



図3 書き込みの視点

また、「書き込みの視点」(図3)として3つをあげ、付箋紙の黄色は「おもしろいところ」緑色は「疑問に思ったところ」紫色は「心に残ったところ」を書かせる。付箋紙の色で、子どもや教師もどの視点で多く書き込みをしているのかがわかる。また、付箋紙の枚数を子どもに数えさせることで、どれだけ多くの気づきがあったかを意識させ、書き込みの数を増やしたいという思いから、意欲的に取り組ませることができないのではないかと考える。

相互交流の工夫

読み深めるには、他者と交流することが有効となる。相互交流することにより、自他の意見の違いを知り、多様な見方・考え方があることに気づき、自分の考えを見つめ直すきっかけになるからである。その際、書き込みをもとに、根拠をもった交流をすることで、伝え合う力を育てると同時に自らの読みを深めることにつながると考える。

交流の形態として、ペア、グループ、全体交流がある。今回は一対一で交流しやすく、全員が意見交換しなければならないペア交流を行う。また、全体による交流では、教師が中心となり、クラス全体で、比較・検討することにより、多様な見方・考え方がわかり、友達のよさや表現のよさに気づかせると共に、主題に迫ることができるようになる。

4 関連作品へと発展させる工夫

「三年とうげ」から世界の民話や童話に読書を広げるための環境を工夫する。工夫の一つとして、本の題名を書いた付箋紙を世界地図に貼り、世界のいろいろな本に興味・関心をもたせ、関連作品へと発展させる。二つ目は学校図書館や市立図書館から関連ある本を借りてきて「世界の本コーナー」を教室に設置し、本を紹介したり、いつでも読める状態にしておく。心ゆくまで自分の気に入った本に読み浸れるように、時間を確保する等、環境を十分整えていきたい。

また、関連作品を読み深める手立てとして「三年とうげ」で帯作成した力を生かし、本の帯作成を行う。子ども達に帯作成とその紹介を目標としてもたせ、自分で選んだ本を意欲的に読

ませるようにする。自ら選んだ本のキーワードや要旨をまとめ、読み手にその本のおもしろさを伝えられるようまとめさせることで、その本に主体的に関わり読み深めようとする。また、工夫した帯を紹介することにより、友達が選んだ本に興味を示し、読書をより広げていくことも可能だと考える。

授業実践

1 単元名 本の世界を広げよう

2 単元目標

- 世界の民話や童話に興味をもち、進んで読書することができる。読むこと
- 音読や書き込みを通して、自己の考えを明確にもち、相互交流する中で読み深めることができる。読むこと
- 友達が読みたくなるように工夫して、本の帯を作る。言語事項

3 単元について

(1) 教材観

「三年とうげ」は朝鮮の民話である。起（物語の舞台設定）・承（おじいさんの登場）・転（事件発生）・結（解決）という構成が捉えやすく、表現上の特色として、複合語、擬音語、擬態語が効果的に使われ、人物の様子や行動が生き生きと描写されている。また、全体に流れるリズム、テンポのよさは、語り継がれた昔話や民話の特徴を伝えている。

複合語、擬音語、擬態語に注目して、言語感覚を豊かにすることができる教材であり、全体に流れるリズムやテンポのよさは楽しく読め、音読にも適した教材と言える。

(2) 児童観

6月に行ったアンケートで、ほとんどの子が物語の本を読むことは好きだと答えている。好きな理由は「おもしろいから」「どきどきするから」「動物がでてくるから」「絵がでてくるから」という回答が多かった。児童の回答を見ると、主題に触れるような内容や感動が少ない等、読み深めることが十分ではない。叙述に即して、イメージを膨らませたり、言葉や表現の仕方に着目し読み味わったりする等、児童にその本のもち味を味わい読書を広げられるような力を身に付けさせたい。

(3) 指導観

低学年では順序という視点で全体を捉えてきたが、ここでは起（物語の舞台設定）・承（おじいさんの登場）・転（事件の発生）・結（解決）で捉えられるようにする。その際、場面ごとに小見出しをつけ捉えやすいように工夫する。そして声に出して読むことで、リズムとテンポのよさを楽しみながら、言い伝えや歌、擬音語、擬態語を用いた表現のよさに気づかせおもしろさを味わわせたい。

また、学習の手引き等で一人学びができるようにしたり、行間への書き込みを行うことにより、語句や文に着目して、おもしろいところやその理由を探し、自分の考えや感想など自分なりの読みをさせる。

その上で、ペアや全体で交流することにより、自分の読みを伝え合わせ、各々の見方・考え方のよさや表現のよさに気づかせたい。

4 指導計画

時	学習目標	主な学習活動	教師の支援	○評価 方法
1	○「三年とうげ」の読み聞かせを聞き初発の感想を書く。	1 今までに読んだ外国の話を発表し合い、世界中にたくさん話があることを知る。 2 「三年とうげ」の絵本の読み聞かせを聞き、初発の感想を書く。	○読書への興味・関心を高めるために、世界の民話や童話を教室に設置する。 ○「三年とうげ」を読み聞かせ、学習意欲を高める。	○話の内容の大体を理解して感想を書くことができる。 書くこと ワークシート
2	○「三年とうげ」のあらすじを捉え、小見出しをつける。	1 読めない漢字や言葉にサイドラインを引きながら音読する。(一人学び) 2 ペアで読めない漢字や言葉を教え合いながら音読する。(ペア交流) 3 全体であらすじを確認しながら小見出しをつける。	○一人学びの仕方を教える。 ○ペアで、読めない漢字や言葉を教え合わせる。 ○挿絵とワークシートを準備し、場面ごとに話し合いながらあらすじをとらえ、ワークシートに小見出しをつけさせる。	○話の内容の大体を理解してあらすじを捉え、小見出しをつけることができる。 読むこと ワークシート
3 4	○「三年とうげ」を読んで、そのおもしろさ、疑問、心に残ったことを書き込む。	1 音読をする。 2 書き込みの仕方を学び、個々で書き込みをする。 3 書き込みの仕方についてよくわからないことや疑問などをペアで交流し教え合う。(ペア交流) 4 全体で学習計画を立てる。	○登場人物の言動や繰り返し、擬音語、擬態語に着目させながら書き込みの仕方を教える。 書き込みの視点 ・おもしろいと思ったところ ・疑問に思ったところ ・心に強く残ったところ ○書き込みの仕方がわからず困っている児童は友達や先生に聞いて書き込みができるようにする。 ○付箋紙の枚数から、どれくらい書き込めたかを意識させる。 ○場面ごとにおもしろさを伝える帯を作ることを確認する。	○登場人物の言動に注意しながら自分の考えを書き込む。 読むこと 書き込みノート ・付箋紙
5 6 7 (本時)	○「三年とうげ」のおもしろさを相互交流し、多様な見方・考え方や表現のよさを知り自分の読みを深める。 ○おもしろさをキーワードを使って本の帯に表現する。	1 場面ごとに音読する。 2 めあてを確認する。 おもしろいところを見つけて本の帯を作ろう。 3 書き込んだ中からおもしろさをペアで伝え合う。 4 クラス全員で叙述に即しておもしろさを交流する。 5 自分で感じたおもしろいところをキーワードを使って本の帯を作る。 6 音読する。 7 自己評価する。	○書き込みや前時の帯から見方・考え方、表現のよさを紹介し、賞賛することにより意欲をもたせ、めあてを自分のものとさせる。 ○ペア交流をさせることで、全員がおもしろいところやその理由を伝え合うことができるようにする。 ○付箋紙の枚数からどれくらい書き込みができたかを意識させると共に、ペア交流でその枚数を増やすように意欲を喚起する。 ○動作化させ、おもしろさを実感させる。 ○自分で感じたおもしろさをキーワードを使って簡潔に帯に表現させる。 ○おもしろさを味わいながら音読させる。 (場面によって音読、帯作りの順番が変わる。)	○友達の多様な考えがあることや友達のよさに気づくことができる。 読むこと ワークシート ○キーワードを使って本の帯に表現することができる。 言語事項 観察 自己評価カード

8	互いが作った本の帯から「三年とうげ」のおもしろさや友達の表現のよさを認め合い、様子がわかるように音読する。	- これまで作った帯を紹介し合い自分や友だちの作品のよいところを見つける。 - おもしろさが伝わるように工夫して音読する。	- 参考になる子どもの作品をクラス全体に紹介し、そのよさを伝える。 - おまけのなぞかけの場面を読み、おもしろさを味わわせ、音読させる。	- 互いの作った本の帯から表現のよさを読み味わうことができる。 - 読むこと 自己評価カード
9 10	世界の民話や童話を読み味わう。	世界の民話や童話を読み味わう。	世界各地の本の紹介をする。	進んで読書することができる。関・意 観察 ふりかえりカード
11 12	- 選んだ本の中から1冊選んでキーワードを使って本の帯に表現する。 - 本の帯を紹介し合い、友達の表現のよさに気づく。	- これまで読んだ世界の民話や童話の中から1冊を決め、その本を読み直し本の帯を作る。 - 帯の発表会を開き、お互いの帯を紹介し合う。	- 参考にさせたい子の本の帯を提示し、キーワードを使ったり要旨をまとめたりして帯を作成させる。 - 自分の帯の工夫したところや、友達の帯のよいところに気づかせカードに書かせる。	- 工夫して帯作りができる。 - 友達の表現のよさに気づくことができる。関・意 観察 みつけカード

5 本時の学習 (7 / 12)

(1) 本時の目標

- 「三年とうげ」のおもしろさを相互交流し、多様な見方・考え方を知り、自分の読みを深める。 読むこと
- 自分の感じたおもしろさをキーワードを使って本の帯に表現する。 言語事項

(2) 本時における具体的な手だて

- 多様な考えに気づき、自分の読みを深めるために、書き込みをもとに叙述に即した交流をする。
- 読む意欲を高め、本のおもしろさやよさをキーワードを使って簡潔にまとめ表現できるようにするために、本の帯作成をする。

(3) 本時の展開

過程	学 習 活 動	教 師 の 支 援	評価と方法
導入 5分	- 音読する。 - めあてを確認する。 おもしろいところを見つけて本の帯を作ろう。 - 書き込んだおもしろさをお互いに伝え合う。 (ペア交流) 多様な見方・考え方、表現のよさに気づかせる。	- 楽しく読めるように読み方を工夫する。 - 書き込みや前時の帯から見方・考え方、表現のよさを伝え、意欲を持たせ、めあてを自分のものとさせる。 - 付箋紙の枚数から、どれくらい書き込みができたか意識させると共に、ペア交流でその数を増やすように意欲を喚起する。 - 書き込みをもとにペアで伝え合い交流させる。 - 多様な見方・考え方、表現のよさに気づかせる。 - 根拠をもって発表できるようにする。 - 動作化させ、おもしろさを実感させる。	
展開 25分	クラス全員で叙述に即して、おもしろさを交流する。 (全体交流) わざとひっくりかえり		友だちの多様な考えがあることに気づくこと

まとめ 15分	○はね起きる（複合語） ○えいやら、えいやら（繰り返し） ○ころりん、ころりん、すってん等（繰り返し、擬音語） 5 自分で感じたおもしろいところをキーワードを使って本の帯に表現する。 6 本時の学習を振り返り、次時の学習を知る。	自分で感じたおもしろさをキーワードを使って簡潔に帯に表現させる。	ができる。 読むこと ワークシート ○キーワードを使って本の帯に表現することができる。 言語事項
------------	--	----------------------------------	--

結果と考察

1 手立て（1）の検証

自分の考えをもつための書き込みと、多様な見方ができるようにするための相互交流の工夫をすれば、児童は主体的に読み深めることができるであろう。

【結果1】

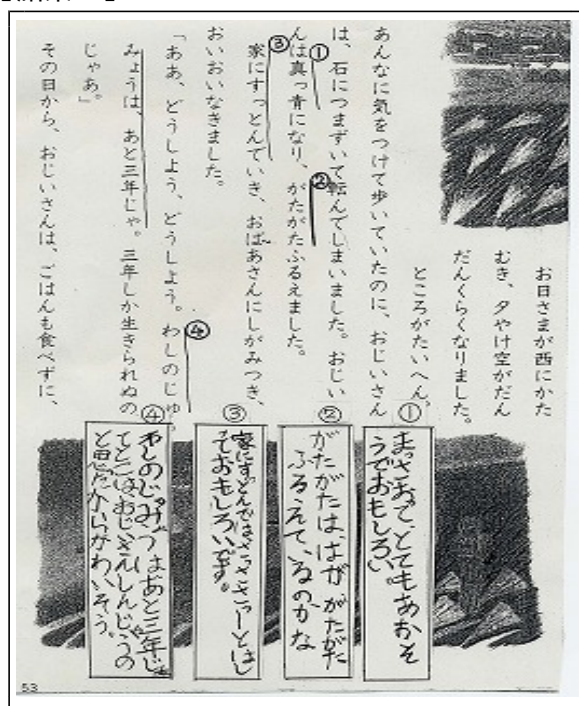


図4 Aさんの書き込み

【結果3】

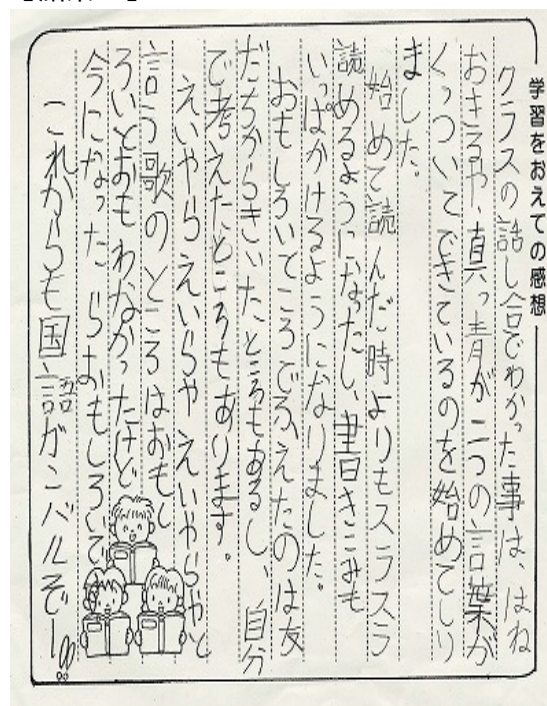


図5 Bさんの感想

【結果2】 クラス全体での相互交流

- T1：ペアさんで話し合って、おもしろいところが増えたお友達が多いみたいですね。では、おもしろいところを発表して下さい。
- C1：歌（P.56）のところで、転べば転ぶほど長生きするからおもしろいと思いました。
- C2：「はね起きる」が「とんで起きている」ようでおもしろいです。（P.55）
- T2：「はね起きる」が「はねる」と「起きる」の2つの言葉でできているので「とんで起きている」感じがするんだね。みんなで一度「はね起きる」を動作を入れてやってみましょう。
 ～全員で動作化をする。～
- C3：「ころりん、ころりん、すってんころり、ぺったんころりん、ひょいころ、ころりんと、転びました。」（教科書 P.57）
 というところが、とうげからふもとまで、丸くなってボールみたいに転がっている気がしたから、おもしろいと思いました。
- T3：すごくいいですね。

C 4 : 同じ文だけど理由が違う。

T 4 : どんなふうに違うのかな。発表していいですよ。

C 4 : ころりん, ころりんとおじいさんが転がっているのがおもしろいと思いました。

T 5 : 同じところでもC 3 君とC 4 君のおもしろいと感じた理由が違うんだね。

【考察】

結果1のAさんの最初の書き込みは, 「家にすっとなでは, さっささっーと走っておもしろい」だけであった。その後, 付箋紙の枚数を子ども達に数えさせることにより, どれだけの気づきがあったかを意識させペア交流をさせると, 〃の書き込みが増えた。〃の書き込みを見てみると, 〃は「疑問に思ったところ」 〃は「おもしろいところ」 〃は「心に残ったところ」と全ての視点で書き込みを行うことができた。これは, 書き込みの視点を提示したことによるものだと考える。書き込みの内容も 「真っ青って, とても青そうでおもしろい。」 「がたがたは, 歯ががたがたふるえているのかな。」 「わしの寿命は, 後三年じゃってところはおじいさん死んじゃうのと思ったからかわいそう」と文中の言葉に着目し, 気づいたことや自分の考えを書き込んでいる。これは, 書き込みを工夫したことにより, 叙述に即した自分なりの考えをもつことにつながったと考えられる。

このようなことは結果2の子ども達が, 叙述に即した根拠をもって自分の考えを発表している相互交流からもわかる。また, 結果2において, C 2は「はね起きる」を「とんで起きるみたいでおもしろい」と考え, 複合語の表現のおもしろさを捉えている。そこで, C 2の発言をもとに複合語に着目させ全員で動作化をすることにより, 複合語の効果を体で感じ言語感覚を豊かにしようと考えた。

C 3は「ころりん, ころりん, ・ ・ ・」から, 「まるでボールみたいに転がっている」と表現し, 小さいボールが軽快にころころ転がるところをイメージし, 擬音語の効果を感じとっている。一方, C 4は同じ文章で「おじいさんが転がっているからおもしろい」とおじいさんの様子を想像しておもしろさを捉えている。このように, 全体交流をすることにより, 表現のおもしろさに着目する見方や表現から登場人物の様子を想像し, おもしろさを味わう見方がある等, 同じ文章でも違う見方・考え方があることがわかった。

また, Bさんは授業中には発表はしていなかったが, 結果3の感想から, 相互交流の中で友達の意見を取り入れていることがわかる。例えば「はね起きる」や「真っ青」等, 効果的に使われている複合語のよさに気づくことができ, 「歌のところはおもしろいとは思わなかったけれど, 今になったらおもしろい」と新たにおもしろいところを見つけ, 見方が広がっている。

以上のことから, 書き込みを工夫することで叙述に即した自分の考えをもち, それをもとに相互交流を行えば, 多様な見方・考え方に気づき, 児童は主体的に読み深めることができると考える。

しかし, T 3やT 5の発問において, 教師がC 3とC 4の見方・考え方のよさを比較して説明し価値付けることが不十分であったことは, 反省すべき点である。

2 手立て(2)の検証

本の帯作成や環境を工夫することで, 世界の民話や童話などに興味をもち, 読書を広げるだろう。

【結果 1】

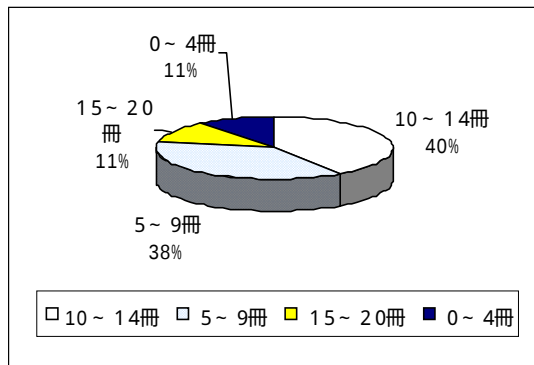


図 6 世界の本の一人あたりの読書冊数



写真「世界の本コーナー」

【結果 2】読んだ本の中から選んで作った本の帯

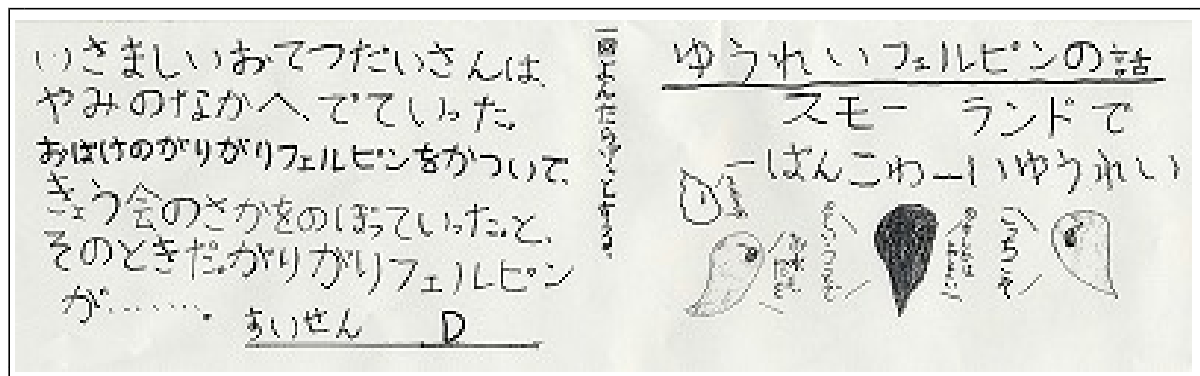


図 7 Dさんの本の帯

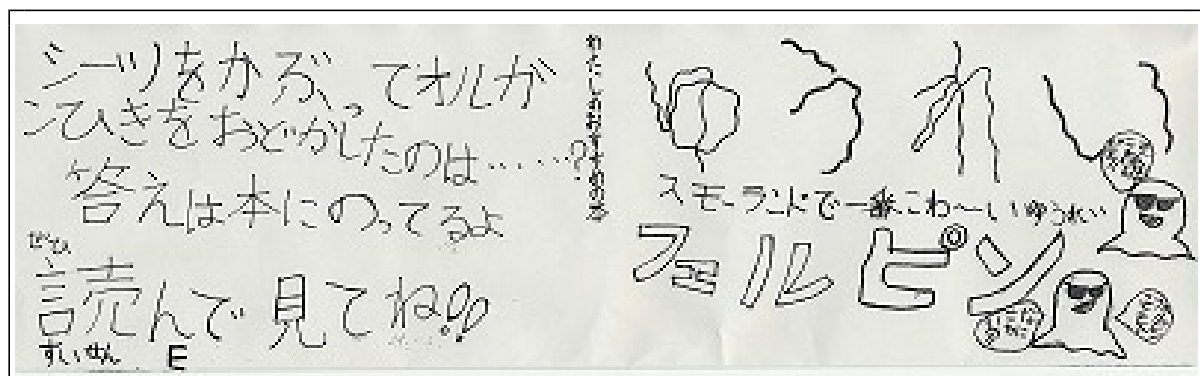


図 8 Eさんの本の帯

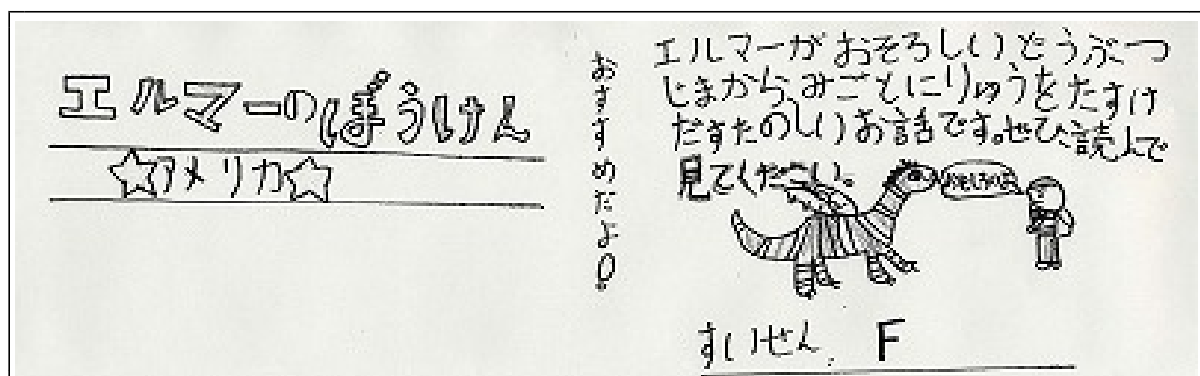


図 9 Fさんの本の帯

【考察】

結果 1 のグラフに見られるように、「三年とうげ」学習後 2 週間で、世界の民話や童話を 10 冊以上読んだ子どもが学級の 51 %にのぼっている。一番多く読んだ子どもは 20 冊である。国語の時間における読書はもとより、自ら進んで朝の会の前や給食の準備時間等の時間を利用しながら、これだけ多くの本を読んでいることから、本に対する興味・関心が高まり、読書する意欲・態度が育ちつつあると思われる。

結果 2 は、世界の民話や童話を読んで作成した本の帯である。DさんとEさんは「ゆうれいフェルピンの話」(文・リンドクレーン、訳・石井登志子)という同じ本の帯を作成している。Dさんは本の山場となる場面をおさえ、「いさましいおてつだいさん」や「がりがりフェルピン」というキーワードを使い「坂を登っていった。とその時だ。がりがりフェルピンが…」と緊迫感と余韻を残しながら読みたくなるよう巧みに表現している。一方、Eさんは「…オルガンひきをおどかしたのは…? 答えは本にのっているよ。読んでみてね」と、クイズ形式で表現をしており、それぞれの表現のよさが出ている。また、Fさんは「エルマーのぼうけん」のあらすじを本の帯(図9)に簡潔にまとめている。

このように、「三年とうげ」で帯作成した力を生かし、本の中からキーワードを見つけ、おもしろさや伝えたいことを表現することができた。子どもたちは帯作りをするという目的意識をもつことで、主体的に関連作品を読み、そのよさを友達に伝えるために読み味わうことができたのではないかと考える。

以上のことから、本の帯を作成したり環境を工夫することで、世界の民話や童話に興味をもち、読書を広げていると考えられる。

研究の成果と課題

1 成果

- (1) 学び方を学ばせるための学習の手引きや音読カードの作成と活用、叙述に即し根拠のある考えをもたせるための書き込みの工夫、多様な見方・考え方ができるようにするための相互交流の工夫を行うことができた。
- (2) 世界の民話や童話に興味・関心をもたせ読書を広げるようにするため、本の帯作成や環境の工夫を行うことができた。

2 課題

- (1) 相互交流において子ども同士で主体的に話し合い、見方・考え方を広げられるようにするための支援。
- (2) 物語文や説明文における単元構成や指導方法の工夫。

《主な参考文献と引用文献》

「小学校学習指導要領解説 国語編」	文部科学省	東洋館出版社	1999
「子どもが輝く国語科授業 読むこと編」	藤田慶三	東洋館出版社	2001
「小学校国語科 基礎・基本と学習指導の実際」	小森茂	東洋館出版社	2002
「読み取りに強くなる」	石田佐久馬	東洋館出版社	1996
「音読・朗読・暗唱で国語力を高める」	瀬川榮志	明治図書	2003